

社会科学習指導案（地理的分野）

学 級： 1 年 3 組 28人
場 所： 1 年 3 組 教 室
指 導 者： 教 諭 阪 本 晃 年

1 単元名 「ヨーロッパ州」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領[地理的分野]2内容 (1)「世界の様々な地域」ウ「世界の諸地域」の中項目をうけて構成した単元である。ここでは、世界の各州を対象として、それぞれの州内に暮らす人々の生活に関わり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的な観点から州内の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追究を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させることが主なねらいとなっている。

前単元ではアジア州について学習し、人口増加の推移や産業発展と人々の生活の関わり等を追究することでアジア州の地域的特色を理解させてきた。ヨーロッパ州の地域的特色を捉えさせるに当たっては、「国家間の統合による発展と地域間格差」を主題とし、単元の構成を行う。そして、地域統合による変化(発展)と課題について多面的・多角的に考察し追究する活動を通して、地理的な見方や考え方の基礎を養い、ヨーロッパ州の地域的特色を理解させたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、教師の指示を素直に聞き、作業学習にもまじめに取り組むことができている。また、新聞・ニュース等で報道されている時事問題に対して、高い関心を示し、教師の問いかけに対する自分の考えを積極的に発言する生徒も見られる。また、アンケートによる調査から、社会科が「好き」と答えた生徒が21人であったのに対し、「嫌い」と答えた生徒が7人であり、学級全体では社会科の学習に積極的に取り組む雰囲気ができている。

その一方で、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識や、資料を基に思考を深め、自分の考えを整理して記述したり、説明したりする能力が全ての生徒に十分に身に付いているとは言えず、これらの能力を高めることについては課題が見られる。

また、平成27年度教研式NRT検査において、地理的分野における全国の正答率が63.3%であったのに対し、本校1年生の通過率は61.0%であり、やや地理的分野に対して苦手意識があるように感じられる。これらのことから、社会的事象における生徒の興味・関心を高めるとともに、基礎的な知識を身に付けさせ、習得した知識を活用して社会的事象に対する思考力・判断力・表現力を育成していくことが、今後の教科指導の重点であると考えている。

(3) 指導観

指導にあたっては、ヨーロッパ州の地理的事象を大まかに捉えさせながら、生徒の興味・関心を高め、基礎的・基本的な知識の定着を図りたい。また、「国家間の統合による発展と地域間格差」を主題として地域的特色を捉えさせる過程において、統合に至った背景や統合によって可能となったことを調査したり、調査した結果を発表させる活動を行ったりして、EU統合の意義について考察させたい。単元の終末にはEUが抱える課題について、資料を基にアジア州の学習での既習事項と関連させながら考えさせ、発展的な学習として、今後のEUの展望についても考えさせていきたい。

3 単元の指導目標

- ヨーロッパ州の地域的特色を理解させるために、「国家間の統合による発展と地域間格差」という学習テーマを設定し、意欲的に追究させる。 【関心・意欲・態度】
- 「国家間の統合による発展と地域間格差」という学習テーマを追究していく過程において、その地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その成果を様々な手法で表現させる。 【思考・判断・表現】
- ヨーロッパ州に関する統計資料の分析、雨温図・主題図・写真の読み取りや比較、関連付けなどの地理的技能を身に付けさせる。 【技能】
- 地球儀や地図帳などを活用しながら、ヨーロッパ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について理解させる。 【知識・理解】

4 単元の指導計画

(1) 評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
① ヨーロッパ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観し、設定されたテーマを意欲的に追究しようとしている。 ② 日常的に用いられるあいさつや生活と深く結びついているキリスト教の習慣などから、ヨーロッパ州の文化についての関心を持つようとしている。	① 設定された学習テーマを基に、ヨーロッパ州の国家間の統合が進められてきた理由や、統合が可能となった理由について、多面的・多角的に考察し、その結果を適切に表現している。 ② ヨーロッパ州の国家間の統合による変化について、背景にあった文化の共通性や統合による人々の生活の変化や、アジア州との比較などと関連付けて考察している。	① ヨーロッパ州における交通、通勤、買い物、通貨など、統合の成果などについて、様々な資料を収集している。 ② 収集した資料から、ヨーロッパ州の地域的特色について有用な情報を適切に選択して、それを基に読み取ったり、既習事項との比較をしながら図表などにまとめたりしている。	① ヨーロッパ州について、小国が多いこと、世界経済における地位が低下してきた様子を概観し、それぞれの基礎的・基本的な知識を理解している。 ② ヨーロッパ州の「国家間の統合による発展と地域間格差」の学習テーマを基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

(2) 指導と評価の計画

時間	指導内容	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の学習課題を設定させる。(例)「ヨーロッパ州は、国家間の統合によってどのように変化し、どのような課題を抱えているか。」 ・ 小国が多いこと、地域により異なる農業がさかんなこと、近代工業が先駆けて発展してきたものの、世界経済における地位が低下してきたことを理解させる。 ・ ヨーロッパを概観する中で、国家間の統合に関心を持ち、その過程を意欲的に追究させる。 	アー① エー① アー①
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現のしかたが似ているあいさつやキリスト教の信仰など、統合を可能にしたヨーロッパの共通性について関心を持たせる。 ・ ヨーロッパが統合を進めることができた理由について理解させる。 	アー② エー①
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通、通勤、買い物、通貨など、ヨーロッパが統合してきたことを様々な資料を関連付けることで読み取らせる。 ・ EUで統合が進んだ理由や、統合によって生じている課題について考察させ、その過程や結果を表現させる。 	ウー① イー②
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ EU加盟国の一人あたりの国民総所得や、ロシア連邦とその周辺の鉱工業主題図から、EUとのつながりについて読み取らせる。 ・ これまでの学習を基に、単元の学習課題の解決をさせ、ヨーロッパ州の特色についてまとめさせる。また、今後のEUの展望について考えさせる。 	ウー② エー②

5 既習事項との関連を踏まえた「判断基準」

既習單元では、アジア州の地域的特色を理解するために、「アジアでは、急速な経済の成長がどのように進んできたか」という学習テーマを設定した。そのテーマを追究していく過程において、アジア州の経済が成長してきた理由と課題について、様々な資料と関連付けながら多面的に考察し、その結果を表現する活動を行った。これらの活動によって学習した社会的な見方や考え方を基に、既習の学習内容と関連させながら、ヨーロッパ州が統合を進めてきた理由とその課題について追究させる活動を行ってきたい。

既習の題材名 「経済成長がいちじるしい中国とインド」 (第1学年)	本時の題材名 「進むヨーロッパ統合」(第1学年)
評価規準	
○ アジア州の経済が成長してきた理由と課題について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○ ヨーロッパ諸国が統合を進めた理由とその課題について、経済面に注目して考察し、その過程や結果を適切に表現している。
評価の場面	
○ 終末時における課題解決場面(まとめ)	○ 終末時における課題解決場面(まとめ)
評価の対象	
○ 学習課題に対して生徒がまとめた内容	○ 学習課題に対して生徒がまとめた内容
判断の要素	
ア 経済成長の理由(豊かな労働力、外国企業の受け入れ)	ア 統合を進めた理由(大国への対抗)
イ 経済面の課題(都市部と農村部の経済格差)	イ 経済面の課題(加盟国間の経済格差)
判断基準B	
ア 中国とインドでは、豊かな労働力と外国企業の受け入れが経済成長を支えていることを説明している。 イ 中国やインドでは、都市部と農村部で経済格差が大きいことが課題であることを説明している。	ア ヨーロッパは小国が多く、大国との競争に対抗するために経済的な統合を進めてきたことを説明している。 イ 加盟国の間で経済格差が広がっていることを説明している。
【予想される生徒の表現例】 中国とインドで経済が成長してきた理由は、 ⑦ <u>豊かな労働力を持ち、外国企業の受け入れによって工業化を進めてきたこと</u> である。 また課題は、④ <u>都市部と農村部との経済的格差が大きいこと</u> である。	【予想される生徒の表現例】 ヨーロッパ諸国が統合を進めた理由は、 <u>⑦ アメリカをはじめとした大国との国際的な競争に対抗するため</u> である。 またEUの経済面での課題は、 <u>④ 加盟国間の経済格差が大きいこと</u> である。
判断基準A	
(判断基準Bに加えて) ○ 経済成長の背景にある、華人とインドの高い教育水準について述べている。 ○ 中国とインドの工業化が抱える課題の対応や環境問題について述べている。	(判断基準Bに加えて) ○ 政治的な背景について述べている。 ○ 特に東ヨーロッパの加盟国で所得が低いことについて説明している。

6 本時の実際（3/4）

(1) 題材名 進むヨーロッパ統合

(2) 学習目標

- ヨーロッパ州で統合されてきた内容を，写真，分布図などの資料を基に読み取ることができる。

【技能】

- ヨーロッパ州が統合を進めてきた理由と，統合に伴うヨーロッパの課題について，主題図などの資料を基に考察することができる。

【思考・判断・表現】

(3) 既習事項との関連を踏まえた指導

ア 知識・技能の活用を図る指導

(ア) 学習課題設定の工夫

課題把握の段階で，既習事項との比較や関連付けを図ることにより，生徒が学習内容の関連を踏まえて思考・判断できるようにする。具体的には，ヨーロッパ州が統合を進めてきた「理由」と，統合によって生じてきた「課題」に注目し，「統合による発展と地域間格差」の本質に迫るための学習課題を設定した。

(イ) 習得した知識・技能を活用させる発問の工夫

課題追究場面では，習得した知識や技能を活用して課題解決のための思考・判断をさせ，解決した結果を表現させる。前単元のアジア州での学習内容を想起させたり，活用させたりすることで，EUが抱える課題について考えさせていく。

イ 「判断基準」に基づく補充・深化指導

(ア) 習得した知識・技能に気付かせる資料の提示

学習課題解決のために，アジア州での学習で扱った資料を提示したり，主題図の着眼点を示したりすることで，判断基準Bに到達していない生徒への補充指導を行う。

(イ) 新たな視点を踏まえたヒントカードの提示

判断基準Bの生徒に対して，社会的な思考力や表現力を更に高めるための指導を行う。具体的には，「統合による発展と地域間格差」という学習テーマに迫るための様々な資料を比較したり，関連付けたりする活動を通して，今後のEUの展望について考えさせ，自分の考えをまとめさせる。

(5) 本時の展開

〔 〕 : 発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	既習事項との関連を踏まえた指導の工夫
導入	6分 2分	一斉 一斉	1 地図や写真を基に、ヨーロッパ州の統合について関心を持つ。 2 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ヨーロッパの国々はなぜ統合を進めたのだろうか。また、統合によってどのような課題を抱えているのだろうか。</div>	・ ICTを使用して、生徒の興味・関心や課題意識を高める。	ア-ア) アジア州の学習(既習事項)と関連させながら、学習課題を設定する。
展開	4分	個	3 学習課題(統合の理由と課題)に対する予想をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">予想される生徒の反応例 ・ 国と国との距離が近いから統合した。 ・ 民族が多くて争いが絶えないという課題があるのではないか。</div>	・ 生徒の発表を基に予想を立てる。	ア-イ) 既習事項である中国の地域別GDPの主題図を提示し、地域別による地域間格差に気付かせる。 イ-ア) 主題図の比較によって、EU各国の加盟時期と経済格差との関連性に気付かせる。
	8分	個 ↓ ペア	4 資料を基に、ヨーロッパが統合した理由について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">予想される生徒の表現例 ・ 一つの国だけではアメリカのような大国に経済的に対抗できないため、統合して競争力を高めた。</div>	・ アメリカ、日本とのGDPの比較を通して理由に気付かせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・ ヨーロッパはなぜ統合を進めてきたのでしょうか。</div>	
	12分	個 ↓ グループ	5 主題図を基に、EUが抱える経済面における課題について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">予想される生徒の表現例 ・ 国民総所得が高い国と低い国との差が大きい。 ・ EUに加盟した時期が遅い国ほど、所得が低い。</div>	・ 一人あたりの国民総所得は東ヨーロッパで低いことや、EUに加盟した時期が遅い国ほど所得が低い傾向にあることに気付かせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">・ EUは、どのような課題を抱えているのでしょうか。</div>	
	5分	一斉	6 EUが抱える課題を解消するための方法について考える。	・ 既習事項であるアジア州の学習内容と関連させて考えさせる。	
終末	13分	個 一斉	7 学習課題に対するまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ヨーロッパ諸国が統合を進めた理由は、アメリカをはじめとした大国との競争に対抗するためである。また、EUの経済面での課題は、加盟国間の経済格差が大きいことである。</div>	・ 個人で考えさせた後、全体でまとめを行う。	イ-イ) 判断基準Bを満たしている生徒に対して、「これからもEUは加盟国を増やすべきか」というテーマを与え、これまでの学習を基に、自分の考えを表現させる。(深化指導)